

## 牛の肝臓の結節

大西 栄二

症例：牛（交雑種）メス，29ヶ月齢

病歴：なし。

臨床的事項：一般畜として搬入され，異常は認められなかった。

肉眼所見：左葉の腹側端及び大静脈溝周囲に拇指頭大で赤桃色を呈する結節が認められた。断面は白色を呈する管腔様構造で赤色滲出液がみられ，断面の膨隆も認められた。総胆管の肥厚や肝蛭の寄生は認められなかった。その他臓器に著変は認められなかった。

組織所見：病変部の小葉間結合組織は増生し，広汎な出血も認められた。小葉間結合組織には，動脈，静脈，偽小胆管の増生がみられ，これらの周囲を結合組織が取り囲むような像が認められた。小葉間静脈の周囲には，好酸球やリンパ球を主とした炎症性細胞の浸潤像がみられ，これらは小葉間静脈の周囲を取り囲むように浸潤していた。

小葉間動脈は著しい内膜下の肥厚により狭窄し，管腔内はエオジン好性に染まる無構造物と少量の赤血球や炎症性細胞が認められた。また，平滑筋の結合組織の増生を伴った著しい増殖が認められ，小葉間結合組織には結合組織に境界された平滑筋の増殖像も観察さ

れた。

エラスチカワングーソン染色により，狭窄した小葉間動脈の内弾性膜の破断を認め，周囲で増生した小血管には内弾性膜を有するものが多くみられた。

診断名：小葉間動脈の狭窄及び増殖がみられた好酸球性増殖性小葉間静脈炎

組織診断名：牛の好酸球性増殖性小葉間静脈炎

討議：小葉間動脈の内腔の狭窄の発生原因及び牛の好酸球性増殖性小葉間静脈炎の好発部位について討議がなされた。

小葉間動脈の内腔の狭窄の原因については病変部の二次的変化が著しいため特定には至らなかった。

牛の好酸球性増殖性小葉間静脈炎の好発部位については，尾状葉及び左葉の背側の門脈枝が一本支配の領域となる部位に好発し，血管径が大型のものは軽症であるが，中型のものでは典型的な病変を形成するとのことであった。